

東日本大震災支援「第二期募金」支出項目 「会堂復旧工事」の進捗状況報告

大会は被災された教会の会堂復旧を第二期募金支出項目の大きな柱にしており、その具体化のために東北中会拡大伝道委員会を中心に鋭意検討が進められています。今回は石巻伝道所と北中山伝道所の会堂復旧工事の進捗状況を報告いたします。

1. 石巻伝道所の会堂復旧状況

(1) 被災状況

石巻伝道所は牧師館一体型の会堂が地震と津波で背丈程の海水が入りました。また地震により牧師館の壁面が崩落したりして居住不可能になり大きな被害を受けました。このため東仙台教会ボランティアやサマリタンズ・パースの支援で床下のヘドロ除去が行われ、会堂に仮の床が貼られ、何とか礼拝は出来る状況になりました。一方、牧師館は住める状況にないため、白津教師夫妻は引越を余儀なくされました（家賃は市から2年間援助）。

(2) 工事の進捗状況

工事計画の主体は東北中会拡大伝道委員会が担っています。教会としての再建と牧師家族の住居確保のために様々な可能性があったために、協議を重ねてきました。

現在、石巻は建築ラッシュのため、工事内容の確定・見積り・業者選定等にさらに時間がかかることも予想されますが、被災対応の工事として着手できるよう取り組んで行く予定です。

2. 北中山伝道所会堂復旧状況

(1) 被災状況

北中山伝道所は仙台駅から北西部に位置する山を造成して開発された地区にあります。2区画を購入してこの上に牧師館と会堂を繋いで建設されました。3月11日の地震によって、この両者の繋ぎ目に段差が生じ、建物全体が地盤沈下でねじれや傾斜が出ています。また、建物の多くの部分にすきまができています。また、外壁や土台にひび割れが起きています。礼拝には支障ありませんが、建物が傾斜しているので生活面で不安を感じています。

(2) 工事の進捗状況

工事は被災対応として、会堂・牧師館の被災修復及び地盤強化工事を中心に行います。特に沈下した建物の地盤を強固にするとともに、傾斜した建物の土台を水平に調整（レベル調整）する地盤強化工事を行う予定です。この両者を改善する工事が「ダブルロック工法」という工事です。

※ダブルロック工法：ダブルロック工法とは、地盤を岩（ロック）のように固め（液剤を注入して固定化する）、建物が下がったり動いたりしない様にロック（鍵）するというイメージの画期的な新工法とされています。インターネットHPがありますのでご覧ください。<http://www.zitaijyo.com/index.html>

(3) 工事費用

既に第二期募金の支出項目にありますが、調査委員会が提出した地盤強化対策（ダブルロック工法）費用と建物の耐震工事費用を合わせると1,250万円ほどの数字が出ています。今後、この計画を進める方向で、工事内容と金額を拡大伝道委員会と伝道所と業者間で詰めて計画内容を固めていきます。最終的には契約内容を大会執事活動委員会・東北中会拡大伝道委員会・伝道所間で決定し工事に着手します。

（文責：大会執事活動委員会委員 豊川修司）

*東仙台教会のボランティア活動ご報告

・12月28日～29日に行われました一泊二日の子供キャンプは、32名の子供たち(30名が野蒜小学校)と10名の奉仕者(2名は保護者)が参加してくださり、大変祝福された会となりました、とのことでした。宿泊を伴う行事に30名もの子供達をそれぞれのご家庭が送ってくださったということは、それだけ地域の方々との深い信頼関係が築かれているという証拠であると思いました。皆様のお祈りを感謝いたします。



・浜松伝道所を中心とした中部中会諸教会伝道所の奉仕者の協力の下、東名・野蒜地区の仮設住宅への訪問も続けておられます。仮設住宅に暮らしておられる方々にお手紙を添えたプレゼントをお届けし、お交わりを持つという奉仕です。仮設住宅の方々からの信頼を得、「教会さん」と呼ばれ親しまれているようです。このお働きがさらに祝福されますように、一人でも多くの方々に主の愛が届きますように、お祈りください。

・「サクラハウス」での「にじいろ楽習会」も、毎回20～30名の子供たちが参加し、毎週(月)(水)(金)の3日間、一緒に宿題をしたり遊んだり、放課後の時間を楽しく過ごしているそうです。保護者の皆様からも喜ばれ、これからの活動も期待されています。「にじいろ楽習会」にこれからも必要なスタッフが与えられ、良い活動を継続することができますように、また参加してくれている子供たちの心の癒しと成長のために、是非続けてお祈りください。



・「サクラハウス」は2年間無償でお借りできることになっていますが、その後の活動をどのように考えてゆくかで、今後行いますリフォームの仕方も変わって参ります。従いまして、いずれ大きな決断をしなければなりません。主によって長期的なヴィジョンが与えられ、進むべき道が開かれますように、全ての必要が満たされますように、どうぞ続けてお祈りください。

ボランティアのお兄さんと一緒に音読中

*ファミリーホーム事業のご紹介

第一期募金より25万円をお捧げいたしましたファミリーホーム事業についてご紹介いたします。この働きは、日本キリスト改革派白石伝道所のト蔵康行兄が会長を務めておられる日本ファミリーホーム協議会によって進められております、社会的養護が必要な子どもたちのための働きです。子どもは親の愛情をいっぱい受けながら家庭で生活し、成長していくのがごくあたりまえに思われますが、親の養育放棄、病気、虐待、貧困等々、さまざまな事情で親と一緒に暮らせなくなった子どもたちがいます。そうした子どもたちに社会が責任をもって実家庭に替わる生活の場を用意し、子どもたちの育ちを支えていく、また心身の傷をケアしていく、そのための体系を社会的養護といいます。全国には約4万人の社会的養護が必要な子どもたちがいますが、そのうちの約9割が児童養護施設等で暮らしており、約1割が里親家庭やファミリーームにおいて養育されています。子どもは、本来、家庭的な愛の交わりの中で育てられるべきであり、ファミリーホーム事業はそのような必要になんとか応えてゆきたいという願いから始まったそうです。2009年4月より正式に国の制度となり、既に全国で145のファミリーホームが開設されています。特にこの度の東日本大震災によって宮城県内だけでも126名の震災孤児と、700名を超える震災遺児が生まれたそうです。126名の孤児たちの内、全く身寄りがなく養護施設に入所した子供は現在のところ2名ですが、親戚などに身を寄せている子どもたちも、時間が経過するにつれて様々な問題が生じてくる可能性がある上に、宮城県に関しては既に施設は満杯状態であるという状況の中、ファミリーホームや養育里親のお働きは今後より一層重要な役目を担われることになるのではないかと考えられます。

一人でも多くの子どもたちに笑顔が戻りますように、どうぞこのお働きのためにこれからもお祈りください。

(文責：大会執事活動委員会 吉田 実)

＊手編みの靴下をお届けする活動ご報告

名古屋岩の上伝道所 12月亙理町・山元町ディアコニア支援活動報告

ディアコニア支援室 室長 岡本真理

◆奉仕者 相馬牧師 草野牧師(恵那教会) 大野長老・大野執事(仙台カナン教会・29日のみ) 三輪委員
杉山誠委員 岡本直人兄 相馬恵姉 岡本真理 計9名

◇タイムスケジュール

- 28日 移動 那須クラッシュベースキャンプにて物資受取り 18時宿着 打合せ
29日 9時～11時半 亙理郡山元町旧坂元中跡仮設住宅、
14時～17時過ぎ 亙理町旧館仮設住宅にて戸別訪問・物資配布
昼食時、NPO団体バンドエイド O氏より現地の話を伺う
30日 9時～12時 2箇所の仮設住宅に分かれ、前日の留守宅を訪問
(岡本兄姉は南仙台で開催されていた東北中会学生会にて活動のアピール)
12時過ぎ 現地出発 22時教会着

◇配布した物資

手編みの靴下やマフラー(304点)、手作りのケーキとクッキーのセット(284点)
御言葉入りちぎり絵カレンダー、お手紙と返信用封筒、聖書(希望者)
アディダスの新品スニーカー(約100足、キリスト教団体クラッシュより)

皆様のお祈りとご奉仕・献金に支えられ、道中と天候が守られ、無事に活動ができたことを感謝致します。草野先生、大野ご夫妻が参加して下さったことはとても大きな恵みでした。奉仕者が多く与えられたため、1軒ずつゆっくりと時間をかけてお話しを伺うことができ、また、自治会長様・管理人様より、次回の集会所使用の許可をいただきました。東北学生会でも岩の上教会のディアコニア活動を紹介したところ、前向きな反応がありました。仮設住宅の方々も、全体的に好意を持って交流していただいたと感じます。

まもなく震災から1年が経ちますが、岩の上教会ディアコニア支援室の活動は、物資の支援から、より内面的なもの、個人的なつながりが必要となるものに転換する時期かと思います。4回目となる現地での活動は、これからの活動に向けて大きな収穫のあるものでした。

次回の被災地への訪問は3月18日から20日を予定しております。お祈りに覚えていただければ幸いです。



「12月の被災地訪問を終えて」

名古屋岩の上传道所 委員 三輪祐子

岩の上传道所の4回の現地訪問のうち、私は昨年9月と12月に加わりました。今回は結構朝の早い、突然の訪問だったのにも関わらず、Tさんは笑顔で迎えてくださり、私たちの来訪を喜んでくださいました。持参した手編みの靴下と、手作りのクッキーを手にされると、「震災を受けた直後、支援していただいた時は、ただただ感謝するのみで精一杯だったのだけれども、ここのところ、支援を受けると、私も何かお返ししたいなという気持ちが出てきてね…」とお話してくださいました。Tさんにお渡しした靴下は、私の101歳の祖母が編んだものでしたが、Tさん自身、これから編み物に取り組んで、他の方に編んで差し上げるつもりなのだと思います。他のお宅にも、各教会の皆さんから送られてきた手編みの靴下を持参しましたが、編んでくださった方のぬくもりを感じてくださり、靴下についているメッセージを読んで涙される方がおられました。私どもは、皆さんが時間を捧げて手作りしてくださった、靴下やマフラー、そしてケーキを持参した

だけでしたが、このように被災地の方々が、その用意して下さったお一人お一人の想いを敏感に感じてくださり、励ましを受けられたのだと思います。現地訪問に際し、手編みの物資をお届けくださり、祈りを持って準備をして下さった諸教会の皆様は厚く御礼申し上げます。今年度も皆様のお祈りと支援を受けて、主が導いて下さった被災地の方々お一人お一人との出会いを大切に、教会のディアコニアを継続させていきたいと願っております。宜しく願いいたします。



<今月の御言葉>

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」

(へブライ人への手紙 11:1)

新しい年を迎えました。今年は心なしか年賀状の数が減っているように思われます。素直に新年を祝う思ひになれないと言うこともあるのかもしれません。私たちが直面しております「現実」はなお、厳しいものがあり、困難な状況に翻弄されている方も多くあることでしょう。今、目にしている事、よく知っていると思っている事を直視しますと、決して楽観的になれないと言うことがあるかもしれません。ところで、私たちが、よく知っていると思っておりますことは、自分が見た事、既に体験した事、過去となってしまった事です。その苦い思い出がよみがえる度に、あの時、ああしておけばよかった、あの時、ああ言うっておけばよかったと言う思ひに苛まれます。しかし、もし、そこから目を引き離して、未来を見据えたとしたら、私たちが何かを知っているのでしょうか。明日も今日と同じことでしょうか。聖書は言います。あなたが望んでいる事柄を確信する道があると。今はまったく見えていないように思える未来になお、あなたの希望を信じる道があると。起きてしまったことは変えられません。しかし、望みがかなう未来を信じることはできます。聖書の神にあつてなお確かな未来を希望する道が示されています。新しい年の歩み、未来に思ひを馳せましよう。

(大会執事活動委員会委員 杉山昌樹)